8、大航海時代　p,78~87

ポルトガル・スペインが（1）を求めて、イタリアとムスリムの商人が牛耳る。

地中海交易以外の新航路を探す⇒（2）時代（15～17C）（ポルトガル）

（3）：（4）（アフリカ南端）に達する（1488）。インドの（5）に到着（1498）。

ポルトガル人は、（6）、（7）、中国の（8）などに進出。（9）に漂着（1543）。

（10）に漂着(1500)（スペイン）

（11）：大西洋を横断し、西インド諸島のサンサルバドル島に到達。（1492）。

（12）：世界一周を行うがフィリピンで戦死。部下が故国に戻る（1522）

（13）：が（14）王国を、（15）が（16）帝国を滅ぼす。

疫病と（17）などの鉱山やサトウキビなどの（18）での酷使のために先住民の数が激減→労働力確保のためアフリカから（19）を連行。※修道院の布教活動でカトリックが広まる。

（20）は先住民酷使を批判。

スペイン：（21）家の（22）のもと、16C後半が全盛期。

（イギリス）

（23）：スペインの（24）を破り（1588）、（25）を設立（1600）。

（26）革命（1641～49）：（27）（ピューリタン＝カルヴァン派）の（28）が勝利して（29）を処刑し、（30）を実現。（31）（1660）→（32）革命（1688～89）：カトリックの国王を追放し、オランダから（33）と（34）夫妻を招き、「（35）」を定める。

議会の優位が確立し、18C初めに責任内閣制も成立⇒（36）を実現。

フランスの（37）（「太陽王」）、17C前半～（38）の典型、（39）建設。

ロシアの（40）、（41）朝：17C末～西欧化を進め、大国になる。

10、アメリカの独立　p.86~99

プロイセンの（1） 　　　　　　　18C中ごろ～（3）



オーストリアの（2）（ハプスブルク家）　　※末娘が（4）

1992　ロシアの（5）がプロイセン・オーストリアとともに第1回（6）→ポーランドの滅亡。

イギリス人の入植：北アメリカの大西洋岸 両社の植民地争奪戦

フランス人の入植：カナダ・ルイジアナ　 でイギリスが優位になる。



（7）貿易　　　　　　　　　　（8） ヨーロッパ　　　　（9）



南北アメリカ 大西洋　　　　　　　　　　アフリカ

　　　　　　　　　　　　　　　（10）



北アメリカの13植民地日本国イギリスが次々と課税→植民地側は「代表なくして課税なし」を標語にして反対→（11）事件（1773）→（12）（1774）→（13）戦争（1775～83）→（14）宣言（1776、7/4）（（15）らが起草）。イギリスよりの人々はカナダへ。

フランス・スペインが植民地軍側に参戦。（16）で（17）の独立を承認（1783）→（18）憲法の制定（1787）（人民主権・連邦主義・三権分立をうたう）。※初代大統領は（19）。

12（11）、産業革命　p.106~113

1804　ラテンアメリカ初（1）の（2）の成立。

ラテンアメリカ諸国の独立：1825年までにほとんどの植民地で達成。

（3）など（4）（現地生まれの白人大地主）が独立運動の中心。

様々な人種が混血し、複雑な社会が形成される。※（5）宣言（1823）：時の合衆国大統領がヨーロッパとアメリカ大陸の相互不干渉を唱える→合衆国がアメリカ大陸の指導者に。

イギリス（6）（18C～）：今日の工業社会の出発点。

生産力の革新に伴う社会の根本的な変化。（7）が改良した（8）の実用化（（9）がエネルギー源）など。綿工業の技術開発から始まる。（10）が（11）を実用化→（12）―（13）間の（14）開通（1830）※アメリカ人（15）が（16）を実用化（1807）17Cのイギリス：経済が大きく成長「（17）」として利益が集積⇒（18）社会の確立。

工業都市に労働者があふれ、労働条件や衛生、治安の問題が発生。→1830年代～一連の（19）

の制定（9歳未満の児童労働の禁止など）。

（20）（1832）→男子普通選挙法を求める。（21）運動が活発化。

（22）思想：労働者の貧困がなくならない資本主義を克服する道を探求。

※（23）村：工場で社会主義改革。

社会主義者の（24）と（25）が「（26）」を発表。（1848）→ロンドンに亡命後「（27）」を刊行（1867）、（28）（国際労働者協会）を結成し、労働者、社会主義者の国際的協力を促す。

11（12）、フランス革命 p.100~105

フランス革命（1789～99）

18Cのフランスは（1）：①第一身分（聖職者）②第二身分（平民、農民が大半、（2）が台頭）

※革命の要因：第一に財政悪化、啓蒙思想やアメリカの独立の影響もある。

（3）の招集→第三身分が（4）を結成→パリの民衆が（5）を襲撃し、武器を奪う。（1789、7/14）→国会議会が（6）の廃止、（7）宣言（人間の自由と平等、人民主権をうたう）の発布（1789，8）、国王一家の逃亡事件（1791）→（8）の成立（1791～92）。

（9）（男子普通選挙により成立）（1792～95）が王政廃止と共和政を宣言。

→（10）（1792～1804）→（11）とマリ=アントワネットの処刑（1793）→（12）の結成

→（13）派による（14）（1793，6～）→（15）（（16）らの処刑（1794，7））

→（17）（1795～99）：不安定

フランスの第一帝政（1804～14，1815）

コルシカ出身の（18）により、（19）（1799）→（20）（1799～1804）→皇帝として即位（21）、フランス銀行を設立。（22）を制定。

戦歴：イタリア遠征（1796～97）、エジプト遠征（1798～99）、

（23）でイギリス海軍に敗北。

（24）でロシア・オーストリア軍に勝利（1805）→スペインやオーストリアに侵入。

→（25）に失敗（1812）→退位し、エルバ島へ（1814）→王政復古。

（26）（1814～15）：列強が参加し、フランス革命以前の王朝と身分制度を取り戻し、勢力均衡を図る→復古的で反動的な（27）体制（1815～48）

※会議中にナポレオンが「（28）」→（29）に敗北し、セントヘレナ島へ（1815）。

13、19世紀のヨーロッパ　p.114～123、126～129

フランス：（1）革命（1830）（立憲君主政）→（2）革命（1848）でパリの民衆が蜂起、

（3）（1848～52）へ→（4）による（5）（1852～70）（パリ都市改造）

→（6）（1870～1940）。※（7）（1871）：民衆による自治政府が2か月で鎮圧される。

イギリス：（8）の時代に全盛期（19C後半）→「（9）」。

ロンドンで（10）（1851）、（11）の発展。

北：（12）（首相（13））　　　　　両者を統一して（16）が成立（1861）。

南：（14）の（15）の征服地



プロイセン：（17）（ユンカー出身）が首相になり、富国強兵政策を推進（鉄血宰相と呼ばれる）→（18）戦争（1870～71）で勝利し、（19）（1871～1918）を成立させる。

※（20）法（1878）、※（21）（1867～1918）の成立。

（22）戦争（1853～56）：ロシアがオスマン帝国らと戦い敗北。

※（23）が活躍、（24）の（25）成立（1863）につながる。

18・19Cの文化

文学：（26）の「（27）」、ユーコー「（28）」、（29）の「（30）」、（31）の「（32）」。

音楽：（33）「魔笛」、（34）「第九」、（35）（ピアノ曲）、（36）「アイーダ」、

（37）「ニーベルングの指輪」

科学：（38）「（39）」（40）論、（41）（電信）、（42）（ラジウム）。

絵画（印象派）：（43）「ひまわり」、（44）「印象・日の出」

※（45）の影響（ex.ゴッホの「タンギー爺さん」）